

# 今も変わらない！「鑑賞の力」

(特活) せんだい杜の子ども劇場  
理事 大久保 佳奈子  
(新田児童館副館長)

「みなさん、こんにちはー！」「みなさん、こんにちはー！」の元気な声で、今年で2回目となるせん杜主催『家族で観よう芸術鑑賞会 2019』の舞台が始まった。開場 30 分前の午後 1 時には会館前に数組の親子が集まってウキウキした様子。開場してドーッとお客様が入ると、一気に会場のテンションが上がった。

今年のプログラムはかかし座による『オズの魔法使い』。よく知られているお話の世界が影絵と実際の人(配役)の動きが合体した美しいステージを作り上げる。子どもも大人もどんどん引き込まれていくのを感じた。

思えば、私がせん杜(当時は子劇と言っていた。)に出会ったのは、下の子が幼稚園の年中時だった。“無料で観られるステージがあるの…”と誘われたのがきっかけだった。息子は「おもしろかった！」と、そのまま入会、長女と3人でいろんなステージを楽しんだ。お当番(当時は子どもの担当があった。)の時はモギリ(チケット受け)をしたり、搬入・搬出の手伝いをしたり、時にはステージに立ち、はじめの言葉や出演者にプレゼントを渡したりすることもあった。子どもたちが輝く瞬間である。そんな経験を繰り返し、子どもも親も成長して来た。

今や、ユーチューブなどで、何でも、いつでも観られる。本当に時代は変化した。1家に1台の電話があるかないかの頃から、今では1人1台のものとなっている。この半世紀の日本の生活の変化は大きい。でも、今も昔も変わらないものは何だろうか。ふと考えてみると、この鑑賞会が物語るように、親子で、友達で、みんなでライブな舞台を観て、心踊る体験をして、一人ひとりの心の中に何かが残る。この感覚は、まさに変わらないものだと感じる。

あの日のチケットは、せん杜が運営している4児童クラブと広く社会へ呼びかけた。チラシを配り始め、1週間で1,200席が満席になってしまった。現代の親子にとっても魅力がある、求められている企画なのだと思う。加えて、このような体験を良いと思ってくださる大人が多くいることも、未来の日本には変わらないものとして続くのだと思った。

公演中、「キャー！」「ワー！」の子どもたちの声、親子で目を合わせる姿、舞台に向けられた顔はどれも輝いていた。グズリ始めた赤ちゃんを抱っこしたママやパパは周りに気遣い、すーッと立ち上がるなど。鑑賞活動は、単に観ることだけに留まるものではなく、僅か2時間の中に、人の温かみが息づく多くのドラマがあるのだ。

舞台の締めくくりはせん杜恒例のプレゼントタイム。16名の子どもたちがステージに上がり、出演者へ心ばかりの気持ちを手渡した。来年もこんな光景に会いたいな！

8月10日にご来場いただいた皆さま、汗だけで演じてくださったかかし座の皆様、この企画を支えてくださった多くのボランティアの皆さまに心から感謝をして、ペンを置くことにします。

皆さん本当にありがとうございました。

